

留学生いわて

2020年度 岩手県留学生交流推進協議会



留学生のみなさんへ

岩手大学長 小川 智



留学生の皆さん、いかがお過ごしですか。何か困ったことはありませんか。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、思うような生活を送ることができなかったのではないのでしょうか。様々な国で入国時の検疫の強化や入国・ビザ発給の制限があり、厳しい渡航規制となっています。その影響は岩手大学も受けていて、昨年(2020年)5月に201名だった留学生数が年末に

は185名に減っています。新規渡日して入学する外国人留学生(交換留学生、私費留学生、国費留学生)は、ほぼゼロと言う状況でした。そのような中でも昨年の夏、日本語・日本文化研修コース、そして交換留学プログラムの修了生の皆さんを無事送り出すことができたのは大変うれしいことで、修了生の皆さんに母国と日本との橋渡しになっていただくことを願いました。また、最近では国費留学生が少しずつですが渡日し始めています。本協議会の事業として、留学生を対象とした「with コロナ」に関する作文コンクールも開催しまして、各々が感じた新型コロナウイルス感染症による影響や心境の変化を語ってくれました。

さて留学生の皆さんにメッセージを記すにあたり、ふと記憶がよみがえってきました。岩手へ赴任して少し落ち着いた30代半ばの頃、ドイツで研究員としてしばらくの間過ごすことになりました。

フンボルト大学のゲストハウスに居を構えベルリン工科大学に通っていましたが、ベルリンの壁が崩壊しユニフィケーション(東西ドイツの統一)された街をS-バーンを利用して通うといった日々を送りました。ベルリン自由大学を含め、それぞれの大学に集まっている世界中の研究者と交流し、共同研究により学術研究を進展することができました。そうなのです。思い切って飛び込むことが大切で、そこから何かが開けてくることを身をもって経験しました。その時の多くの友との交流が今でも続いています。

「多文化共生社会」、国籍や民族などの異なる人々が文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら共に生きていくことができる社会、そんな社会が間もなく来ようとしています。そのためには異なる国の間で、文化や習慣、考え方の違いをお互いに認めることが大切なのですが、これが実に難しいことなのです。留学、他国へ思い切って飛び込むことは、皆さんが「多文化共生社会」を希求する大きなきっかけとなるのではないのでしょうか。これからは新型コロナウイルスとの共存、これはもはや避けて通ることはできません。パンデミックでは過去と決別し、新たな世界を創造していかなければなりません。「with コロナ」とも言うべき「新たな日常」に共に歩みを進めていきましょう。母国を離れて不安なことも多いでしょう。それでも様々な友人を作り、多様な経験を積んでください。そして、多様性の中から生まれる様々な価値観を受け入れ、多くのことを学んでください。私たちは皆さんの留学生生活を全力で応援します。

岩手県留学生交流推進協議会総会

岩手県留学生交流推進協議会総会は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ紙上会議（令和2年12月22日～令和3年1月8日）で開催し、23の構成団体から回答を得ました。

総会では、令和2年度事業計画として、①広報誌「留学生いわて」No.33の発行、②「withコロナ時代の留学生たちは？」作文コンクールの開催について、それぞれ審議のうえ実施することとしました。

また、令和元年度事業として、①総会の開催、②広報誌「留学生いわて」No.32の発行、③第7回外国人留学生による“岩手のいいところ”写真展の実施、④令和元年度外国人留学生の生活状況アンケート集計結果、⑤外国人留学生フィールドスタディ in Iwate の実施について報告がありました。

特別
企画

「with コロナ時代の留学生たちは？」作文コンクール実施報告

平成25年度から実施してきた“岩手のいいところ”写真展は、今年で第8回目の開催となる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴い、例年の写真展から転換して、特別企画として「with コロナ時代の留学生たちは？」作文コンクールを開催しました。作文を通して、県内の留学生たちはコロナ禍でどのように過ごしているかその思いを聞くとともに、今後の留学生支援に役立てていくことが本作文コンクールのねらいでした。

県内の高等教育機関に在学している留学生を対象に募集したところ、岩手大学から14点、盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校から3点、上野法律ビジネス専門学校から1点、全部で18点の応募がありました。

応募作品を通して岩手で生活している留学生も様々に大きな影響を受けている様子が分かりました。「母国にいる家族に会えない」、「本国に帰れない」、「アルバイトができなくなったため、困っている留学生が少なくない」、「遠隔授業は確かに便利だが、宿題の量もだいぶ増えた」など大変な思いをつづった一方で、「強い目標を持つようになった」、「家族と連絡を取ることが増えた」、「料理を作れるようになった」、「自粛生活で様々な自分自身を見つけて自信を持つことができた」と前向きな姿勢も見受けられました。

令和3年3月5日に行われた表彰式では、受賞者に表彰状と各協賛団体等から提供された賞品が贈呈されました。岩手県留学生交流推進協議会長の小川智岩手大学長からは留学生に対し、「母語ではない日本語や英語で、それもわかりやすく書いたことがとても素晴らしかったです」と、講評をいただきました。

本協議会構成機関より、たくさんのご協賛をいただき誠にありがとうございました。図書カード、南部せんべい、クッキー、化粧品、市町村のグッズなど、留学生にはコロナ禍の中、嬉しいプレゼントとなりました。



特集

令和2年度岩手県留学生交流推進協議会事業

「with コロナ時代の留学生たちは？」 作文コンクール

1 開催趣旨・内容

平成25年度から外国人留学生による“岩手のいいところ”をテーマに、岩手県内高等教育機関に在籍する外国人留学生から写真を募集して、外国人からみた岩手の良さを一般市民に広く発信してきました。

今年は第8回となりますが、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」と言う）の世界的流行に伴い、岩手で生活している留学生も様々に大きな影響を受けています。授業がオンラインになった、友達や家族に会えない、本国に帰れない、アルバイトができなくなったなど、「当たり前」の日常が「当たり前」ではなくなっています。

そして、「三つの密」、「ソーシャルディスタンス」、「咳エチケット」、「オンライン飲み会」、「ステイホーム」など、様々なコロナ対策が行われ、岩手での生活環境は大きく変化してきました。

そこで、留学生から with コロナ時代における感想を作文に書いてもらい、コロナとの共存・共生の価値観や世界観について向き合う機会とし、未来に希望を与える機会とします。

また、with コロナ時代の留学生たちの生活・学習状況を、作文を通して構成機関等のみなさんに周知し、今後の留学生支援に役立てていきます。

2 応募資格

本協議会に加盟する岩手県内高等教育機関に在籍する外国人留学生

3 応募方法

- ①指定の様式に作文
- ②文字数など
 - (ア) 日本語の場合 800字以内（A4一枚を超えない、パソコンで入力）
 - (イ) 英語の場合 300単語以内（A4一枚を超えない、パソコンで入力）
- ③作文関連の写真を付けることができる（写真は無くても良い）
- ④一人1件
- ⑤メールに添付して送る（メールアドレス：iuiic@iwate-u.ac.jp）

4 応募するときに注意すること

- ①未発表作品に限ります。
- ②応募後の作品の差替え、修正はできません。
- ③応募作品の著作権は、当協議会に帰属するものとし、応募作品は返却しません。
- ④作品内に個人が特定される情報が含まれている場合、イニシャル表記等を編集させて頂く場合があります。

5 応募作品

応募した作文は、当協議会のホームページと、広報誌「留学生いわて」に掲載します。

6 募集期間

令和2年12月25日（金）～令和3年2月12日（金）

7 優秀作品

本協議会事務局で優秀作品を選び、賞状と副賞を授与します。

8 表彰式

令和3年3月5日（火）11:30 - 12:00

9 協賛団体等【五十音順】

★ご協賛いただきましたみなさま、誠にありがとうございました！

- | | |
|-----------------------------|---------------|
| ○岩手県国際交流協会 | ○富士大学 |
| ○岩手県ユネスコ協会連盟 | ○宮古市国際交流協会 |
| ○岩手県立大学 | ○盛岡市 |
| ○株式会社久慈琥珀 | ○盛岡大学 |
| ○公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会 | ○山下善昭（個人・軽米町） |
| ○八幡平リゾート株式会社 | |

令和2年度岩手県留学生交流推進協議会事業

「with コロナ時代の留学生たちは？」作文コンクール応募作品一覧

1. 岩手県留学生交流推進協議会長賞

岩手大学 黄 耀明 (コウ ヨウメイ) | 台湾 | コロナ時代の思いやり 日

2. 株式会社久慈琥珀賞

盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校 Nguyen Thi Thanh Loc (グエン ティ タン ロク) | ベトナム | 日本留学とコロナからの「贈り物」 日

岩手大学 伍潔玲 (ゴ ケツレイ) | 中国 | コロナ禍で私の留学生活 日

3. 株式会社八幡平リゾート賞

岩手大学 Yu Daehee (ユ デヒ) | 韓国 | コロナ時代の私 日

岩手大学 Tapati Sumaiya Jannat (タパティ スマイヤ ジャンナット) | バングラデシュ | The Pandemic 英

4. 岩手県国際交流協会賞

盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校 ラマ アシス | ネパール | コロナをチャンスに 日

岩手大学 賈 儒昊 (カ ジュコウ) | 中国 | コロナの影響の多面-不利だけではなく、有利になるかもしれない 日

5. 盛岡市賞

岐阜大学 岩手大学配属 Biswas Peru Gopal (ビスワス ペル ゴパル) | バングラデシュ | Global Impact (Brief) of COVID-19 英

6. 岩手県立大学賞

岩手大学 Quan Thi Huong (クアン ティ フーン) | ベトナム | コロナに限らず、変化に対応する力を身に付けよう 日

7. 盛岡大学賞

岩手大学 何 岩 (カ ヤン) | 中国 | A Spot of Bother 英

8. 富士大学賞

岩手大学 Ahmed Rubel (アハメド ルーベル) | バングラデシュ | Aftermath of Covid-19: Quest for New Normal 英

9. いわてユネスコ賞

岩手大学 Luong Ngoc Phuong Lan (ルーン ゴック フーン ラン) | ベトナム | コロナのおかげで体験できること 日

10. サーモンランド賞

岩手大学 何 奕君 (カ エキクン) | 中国 | コロナ時代、生活での些細な出来事 日

11. IF YOU WANT 賞

岩手大学 Tserensambuu Mandukhai (ツェレンサンブー マンドハイ) | モンゴル | コロナが私に教えてくれたこと 日

12. 事務局優秀賞

岩手大学 王 宇超 (オウ ウチョウ) | 中国 | International Students in the Epidemic Era 英

13. 奨励賞

上野法律ビジネス専門学校 趙蓬 (チョウホウ) | 中国 | コロナ時代と私たち 日

盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校 La Woon Pyae (ラ ウォン ピエ) | ミャンマー | コロナをチャンスに 日

岩手大学 江敏婷 (コウ ビンテイ) | 中国 | コロナの時代に生きてても、怖くない 日

— 岩手県留学生交流推進協議会長賞 —



コロナ時代の思いやり

黄 耀明 (コウ ヨウメイ・台湾)

岩手大学 理工学研究科

この文章を書く際、締め切りの“2/12”の日付を見たとき、呆然としました。なぜなら、その日は台湾の旧正月の日だからです。

緊急事態宣言が発表されてから、すぐに家族と話をしました。母は「今のご時世を考えたら、今年は帰らない方がいいよ。おとなしく岩手にいなさい。」と言いました。私は仕方なく受け入れ、「おとなしく岩手にいて学業に専念しよう」と考えましたが、実際に帰りたくてたまりませんでした。2年間母国にいる家族に会わないのは初めてでした。

昨年の今頃を思い出してみると、日本ではしばらくの間マスクが不足していました。ある日、私は最後の一箱のマスクを買おうとしました。けれど、結局それは見ず知らずの日本人のお母さんにあげました。なぜなら、そのお母さんは子供を背負って一日中色々なお店を走り回りましたが、結局一箱も手に入れることができなかつたということが分かったからです。その時、自分の家にはマスクはまだ少し残っていたので、買ったマスクをお母さんにあげました。私は「また探せばいいから、大丈夫ですよ」と言ったら、そのお母さんにすごく感謝されました。結局、マスクをあげた日は、マスクを手に入れることができませんでした。家に帰ってからそのお母さんと出会った話を友人に話しました。私は苦笑して「俺はバカなことをしたな、せっかく手に入れたマスクをそのままあげてしまった」と言いましたが、友達は笑って「いや、バカじゃないよ。むしろヤオミンらしいなと思うよ。」と慰めてくれました。その時の私は、「大丈夫だ。今は買いたくても買えないけど、いずれ手に入るさ」と言い聞かせるしかありませんでした。

数日後、食品を買いに行ったところ、店員さんが品出しでマスクを補充していました。それを見かけた私は、「ほら！いずれ手に入る時が来た」と心の中で叫びました。その日ようやくマスクを買うことができました。

このようなご時世の中では「他人を助けるより、まず自分を最優先すべき」と考えがちですが、もし自分がお母さんと同じような場面に遭遇した時もそのように思えますか。実際に、コロナ禍でこのような状況は日本であろうと台湾であろうと起こり得ることです。ですから、人々がお互いに助け合うことがコロナウイルスを乗り越える最も良い対策ではないかと思えます。一刻も早いコロナウイルスの収束を心から願っています。収束さえすれば、少しでも早く大切な家族に会えるようになるでしょう。



— 株式会社久慈琥珀賞 —



日本留学とコロナからの「贈り物」

Nguyen Thi Thanh Loc (グエン ティ タン ロブ・ベトナム)

盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校 日本語学科

現在コロナという言葉を知らない人はいないと思う。新型コロナウイルス感染症の世界的流行で、私たちの生活は大きな影響を受けているからだ。けれども、大変な中だからこそ、良い事を考え、体験できると思う。留学生として私はいろいろな面白いことを見つけることができた。

日本にいる留学生たちは、経済的に大変だ。コロナによってアルバイトができなくなったため、困っている留学生が少なくない。私もその中の一人だ。しかし、そんな時だからこそ私は自宅でできる「本のレビューを書く」という仕事を見つけることができた。本のレビューを書くという仕事は私にとって最高の仕事だ。読書と文章を書くのが好きな私には仕事と楽しみを兼ねられる、一石二鳥のとても良い仕事と出会うことができ嬉しかった。

また、授業がオンラインになったことは良いチャンスがたくさんあったと思う。世界中で無料のオンラインコースがたくさん作られ、誰でも参加できるようになり、私はハーバード大学のプログラミングとビジネスのコースを受けることができた。そのコースは以前ならアメリカに行かないと参加できなかったので、このチャンスを得たことはとても嬉しかった。

最後に、私が気づいた1番大切な事は『普通こそ1番の幸せだ』ということだ。留学生として学校に行き、バイトをして元気に普通の生活を出来ることが1番の幸せだと言う事に気づけた。

コロナ時代の状況下でも、自分らしく、今よりもっと充実した思い出を作りたいと思う。今年4月で帰国するが、自分が盛岡に来た時に感じたベトナム語や、英語の情報が少ないと思ったことを、これから盛岡に来たいと思っているベトナム人、外国人に少しでも、情報を教える事ができるように 体験できたベトナム語と英語で盛岡のきれいな場所や、美味しかった食べ物などを紹介するブログを作って発信したいと思う！

— 株式会社久慈琥珀賞 —



コロナ禍での私の留学生活

伍 潔玲 (ゴ ケツレイ・中国)

岩手大学 理工学研究科

新型コロナウイルス感染症が世界的流行してからもう一年ほどが経った。世界の人々は以前と全く違う生活を送っている。留学生として、私は去年の生活をまとめて行きたいと思う。

去年の3月に修士課程を修了し、4月に博士課程に入学した。コロナのせいで、修了式と入学式はなくなったので、静かに新しい研究環境に移った。博士課程は研究が中心で、授業が元々少ないので、前期はオンライン授業に変わっても、最初はあまり影響を受けていないと思った。しかし、学部1年生の授業のTAをした時、その影響を実感した。「情報基礎」の授業ではいろいろなパソコンの操作が必要だが、今の学生はほぼスマートフォンを使うので、パソコンを触らない人がいても珍しくない。学生たちの授業環境も人によって違い、授業に関する疑問がいっぱい出た。オンラインでどうやって学生たちに伝えるかは難しいと思った。幸い、時間をかければ、何とかできた。去年は大学新入生にとって大変な年だと思った。

一番大きな影響を受けたことと言えば、私にとっては旅行だ。旅行は私の趣味だけでなく、ストレスの解消法として、時間があれば、一年間必ず何回か行くと思う。コロナのせいで、感染防止のため、どこも行かなかった。その代わりに、去年は岩手県内のいろいろな国際交流イベントに参加した。たとえば、国際交流協会のオンライン中国語コーナー、中学生に向けた異文化講座。国籍が違う参加者に、中国で当たり前だと思ったことを分かりやすい言葉で伝えるため工夫してスライドを作成した。特に強く印象に残っていることは、去年10月外国人材活躍推進シンポジウムに参加したことだ。発表は苦手だが、頑張って自分を紹介して、パネルディスカッションも体験した。いろいろなイベントに参加すると、発表のコツが段々分かるので、知らないうちにプレゼンは上達する気がした。

人間は生まれてから成長のために新しい環境に適応するように努力してきた。コロナ影響がまだ続くが、私たちはきっと乗り越えられると信じている。

— 株式会社八幡平リゾート賞 —



コロナ時代の私

Yu Daehee (ユ デヒ・韓国)

岩手大学 理工学部

私は、塾の数学の先生からコロナウイルスの影響で、日本に入国するためには2週間の隔離が必要であることを知りました。ですので、私は何も準備ができない状態で、韓国から日本に来ることになりました。その時は、大学の寮に入ることができず、祖母の家に住むことになりました。私は、コロナウイルスで、大学生活がどのような生活になるか不安でした。

大学に入学した私はサークル活動をやりたかったのですが、すぐにはできませんでした。そして、友達との出会いもなく、たくさん悩みました。そして、私はコロナウイルスの中で、どのように大学生活をしていくかを考えました。

結果、私は新しい自分を二つ発見しました。一つは料理です。以前は、食べるだけで、料理をしたことはない自分でした。それは、母が毎日作ってくれていたからです。コロナウイルスで飲食店で注文を恐れ、はじめて自分で料理を作り始めました。その結果、韓国料理や洋食など様々な料理を作れるようになり、節約できるようになりました。また、他の人に料理を作ってあげる喜びを知り、これからもっと様々な料理で、人に幸せを伝えたい心が湧いてきました。

二つ目は運動です。私はサッカーやバスケットボールなどの運動が好きですが、コロナウイルスがある今は、やることを避けました。それで、私は寮で、一人で運動をしました。最初はプランクやシットアップなどの運動をしましたが、全然楽しくありませんでした。それで、初めてヨガをやりました。簡単な姿勢の補正や瞑想をやりました。そのおかげで、私は気を落ち着ける方法を学び、より健康な身体を持つことができました。

このコロナウイルスでの自粛生活で、様々な自分自身を見つけて自信を持つことができ、豊かな生活ができたと思います。韓国には「避けられなければ楽しめ」ということわざがあります。今年の私はこのことわざの通りだったと思います。



The Pandemic

Tapati Sumaiya Jannat (Bangladesh)

United Graduate School of Agricultural Sciences, Iwate University

I have come to Japan on October 2019 from Bangladesh to fulfil my dream of becoming a researcher. This is my first time stepping out of the border of my country. After reaching Japan, I could only spent couple of good months here, when there was face to face human communication.

But unfortunately it did not last long because of the spread of the deadly strain of corona virus all over the world leading to the pandemic known as COVID-19. Suddenly there were some remarkable changes in normal human behaviour or practices like wearing mask for whole day no matter what to reduce the risk of infection, washing hands more frequently than ever before, frequent use of hand sanitizer. During this period of time I was even afraid to sneeze in public and touch any surface before sterilization. The most difficult task during this whole time was keeping my hands away from my face. Not only that COVID-19 made me aware of all the choices I could make once they aware taken away from me. Furthermore, since I live thousands of miles away from my family that led me worry more how my family members are surviving these extremely capricious socio-economic changes. But with the time passed by I started to cope up with the situation little by little.

But the bright side of this worst time is that I could give myself lots of time since all the classes, meeting and presentation went online and lab work was organized by rotation. I read a lot of new books and watched lots of movies during my spare time. Not only that I also have spent much of my time cooking and listening to music. Sometimes I talked to my friends from different parts of the world online.

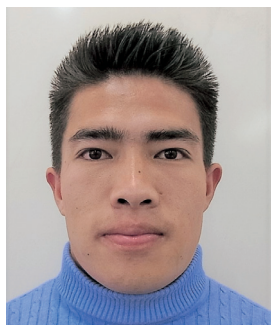
This pandemic taught me how to stay positive even though time is not favourable. During this period of COVID-19 pandemic I have become more health conscious. I also found the online classes, workshop and meeting very convenient since there is no need to get ready or attend it from particular location.

— 岩手県国際交流協会賞 —

コロナをチャンスに

ラマ アシス (ネパール)

盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校 日本語学科



コロナは世界中の人々の生活を困難にしている。私の国、ネパールはコロナの影響でロックダウンの期間が長くなり、食料不足になってしまった。

私は19歳のときからトレッキングガイドの仕事をしている。そこで出会った日本人の方たちと協力して、食料不足で困っている人たちへのボランティアを始めた。きっかけは約8年前、ネパールで20年間ボランティアをしている日本人との出会いだった。その人を通じて、ボランティア活動をしてきたが、今回のコロナでは孤児院や障がい者施設などに行って、お米と野菜、油、塩、マスクを配った。最初は暇な時間が多くて、ずっとコロナのことを考えていたが、ボランティア活動を始めたら忙しくなった。忙しかったが、ボランティア活動をすると、とても元気がでた。色んな人たちと会ったり、外に出たりするのは、自分にとってもほかの人にとっても危険なことだったが、私は病気よりもとても大きな痛みを見たので、怖くなかった。すべての人のためだった。

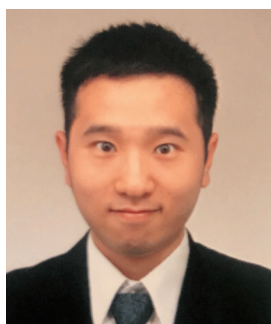
このような経験から私が学んだことは、疫病よりも大きい、強い目標を持って頑張れば、サポートしてくれる誰かがいて、何でも成功できる、ということだ。また、コロナになる前はzoomのような、オンラインがネパールではあまり使われていなかったが、コロナになったことで使われるようになり、zoomで色々な人たちとボランティアについて話し合うことができた。

このような状況は、一人の努力だけではコントロールできない。すべての人が協力しあうことが大切だと思った。



孤児院でボランティア活動をしたときの写真

— 岩手県国際交流協会賞 —



コロナの影響の多面

— 不利だけではなく、有利になるかもしれない —

賈 儒昊 (カ ジュコウ・中国)

岩手大学 理工学部

私は中国出身の留学生です。

岩手県に来て10ヶ月ぐらい経ちました。昨年4月にさいたま市から盛岡市に移住しました。盛岡は騒々しい環境ではなく、静かで落ち着けると感じました。昨年の一年間は新型コロナを収束することができず、様々なことが昨年とは違う環境下でした。入学式が行われず、前期の授業はオンラインでした。授業の大変さもさることながら、何よりも友達を作りにくかったです。様々なイベントが中止になり、学内の合宿も中止になりました。勉強はもちろん、友達作りは工夫して頑張りました。そういった行動の中で興味がある部活やサークルを探し、7月に剣道部に入部しました。剣道部には残念ながら同じコースの先輩がいませんでした。コロナウイルスの影響により夏休みのお祭りや花火大会がなくなりガッカリしました。もちろん東京の友達には会えませんでした。

しかし、たくさんの不幸よりもよかったことがたくさんありました。1つ目のよかったことは、地元の方々が親切であることに感動しました。例えば、私が一番はじめに作った友達は岩手県盛岡市出身で何度も助けてくれました。また、JA 新いわてからいただいたお米も美味しかったです。2つ目のよかったことは後期の勉強の環境が良くなったことです。コロナウイルスの影響で遊びに出歩くことができなくなった反面、勉強に専念できるようになり、先生に質問や相談しやすくなりました。

コロナウイルスの影響で国に帰れず、家族に会えなくなり、苦しい思いをしていました。その苦しみを緩和する方法として以前は旅行をしていましたが、私は大学生なので自分のため、家族のため、旅行費を節約し、集中講義を受け、勉強に専念したいと考えています。人類が新型コロナに勝てる日が必ず来ると思いを馳せながら充実した大学生活を送っていきたいと考えています。

— 盛岡市賞 —



Global Impact (Brief) of COVID-19

Peru Gopal Biswas (Bangladesh)

The United Graduate School of Veterinary Sciences,
Gifu University
(Lab. Of Veterinary Parasitology, Faculty of Agriculture, Iwate University)

Pandemic COVID-19 (Corona virus) has been affected daily life of most of the people worldwide and it slows down global development especially in economy. Until today more than 2 million people were dying and the death rate is several thousand per day and its spreading capacity is very high. It also creates challenges to public health, food systems, jobs etc. Globally, several 100 million people are at risk of falling extreme poverty. Moreover, half of the world population is at risk of losing their livelihoods, especially in the developing and/or poor countries. In poor and developing countries, for most of the people, no work, no income, no food or less food means malnutrition. Due to COVID-19, international transport and trade restrictions have been affected negatively entire food chain and maximum sectors passing very difficult condition. But health and education system has been crushed in several countries. Millions of students deprived their opportunity in education in many countries and some Universities passing sever fund crisis. Additionally, people also suffer mental problems, especially children because the lack of a normal life. Therefore, total world is going to a worse condition.

For preventing COVID-19 infection, I am following some basic health rules like: a. wear mask in public places, b. avoid crowded places, especially party, ceremony, fair etc, c. avoid unnecessary roaming, d. avoid public meeting (using online meeting), e. use hand sanitizer frequently, f. increases immune stimulator food (Vitamin C and A enrich) intake, g. avoids the foreign country visit etc.

Pandemic COVID-19 has many negative sides, but in some cases it has few positive changes. Before pandemic Corona, most of the people and scientist (researcher) had more focus on other than medical or biological sector. Now world realized that biological or medical related research is needed more emphasis for human survival.



— 岩手県立大学賞 —

コロナに限らず、変化に対応する 力を身に付けよう

Quan Thi Huong (クアン ティ フーン・ベトナム)

岩手大学 総合科学研究科

コロナ禍で大きな変化は友達と会う機会がほとんどなくなったことです。今までは休みがあるとき、友達に会ってショッピングをしたりご飯を食べにいくことも多かったですが、今は休みがあっても家にいるか図書館に行くか一人で過ごすのがほとんどです。元々私はがインドア派という理由もありますが、それでも外に出る機会がかなり減っているし、長い休みも海外旅行など思い切って遊べないです。新型コロナの影響で行動が制限されていて、やりたくてもできない状況が多くなっています。今まで楽しみにしていた活動ができなくなっています。思うようにはならない日々が続くことによって不安や恐怖を感じやすくなっています。

そこで私がとった行動は「連絡」です。今までより真面目に家族、友人や知人に連絡をとることにしました。対面が難しいコロナ禍ではありますが、フェイスブックだったり、ラインだったり、さまざまな連絡手段があります。誰かと話したり、やりとりをしたりすることによって不安や恐怖からくるストレスは解消されます。また、コロナ禍だからこそ、不安や恐怖を話すことで私だけ不安に感じているわけではないのだなと共感が生まれ、心が安心します。

連絡をすることに対して理由を探したり、タイミングをはかる必要はないと思います。元気にしているかなとかあなたのことが思い浮かんだのでという理由で十分だと思います。また、返事が返ってこないことに対して嫌われているなど過大にネガティブに考えすぎないようにしています。返事が返ってこない相手が忙しい、他のことに集中していると思うようにしています。

新型コロナウイルス感染症は誰もが初めての経験であり、私たちの生活に大きく影響しています。これを機に変化に対応する力を身に付けていきたいと思います。

— 盛岡大学賞 —



A Spot of Bother

Yan He (China)

Faculty of Science and Engineering, Iwate University

As far as I am concerned, the most breaking news in 2020 is the virus Covid-19. According to the researchers all over the world, the bigger the city is, the greater the risk of outbreak. Since the start of the outbreak, the impact of the virus has increased greatly. I believe this for the following reasons.

Up to now, “Thanks” to the virus we all have changed our lifestyle. In case we may be infected with the disease. We should not go outside if we don’t have to. During the summer vacation, I was back in my hometown. As soon as I landed, I soon noticed that I already had to be isolated for at least two weeks. This situation made the trip a memorable experience.

During the last semester, I had online learning at home. Not everyone wants to learn online. You have to buy a PC and get a network set up, which aren’t cheap. And when they break down, as is often the case, the price is pretty steep to repair and also cause annoying delays. While I like learning online, because I can use the internet to get more information whenever I want.

I also intend to level up my oral English by study in cramming school outside of the university. Because of corona, my teacher reduced the number of classes, so that I have to reduce my lessons as well. There is no question that my plan needs to reset. Fortunately, my reading skills have improved significantly since I have less lessons to practice my speaking. In that regard, I am reminded that there are still some good things depending on what you want to see.

In summary, one important thing that we often overlook in our lives is how our points of view affect how we see the world. Our experiences, beliefs, situations, and even our simple positions in life can change how we see something.

— 富士大学賞 —



Aftermath of Covid-19: Quest for New Normal

Rubel Ahmed (Bangladesh)

Graduate School of Arts and Sciences, Iwate University

Corona virus has been taking a heavy toll on our lives. Nowadays life is not as comfortable as before the corona pandemic. We have suffered in many ways. First and foremost, many of us have lost their nearest and dearest family members, relatives, friends and well-wishers due to corona virus infection. It will take a long span of time to heal the wounds.

In addition to that corona virus has become a big challenge to run the educational institutions as well as taking in campus classes with physical attendance of teachers and students. As an alternative way the educational institutions are functioning through online. During online classes most of the students are unable to pay due attention to the class lectures. Many students feel uneasy to ask questions in the middle of online classes. Because of time constraints the professors cannot response to all the questions asked by the students. This kind of unprecedented communication gap among the professors and students creates an unfriendly environment for effective learning. As a result, many students do not understand their class lecture properly. Eventually it leads to exam phobia, depression and mental health problems.

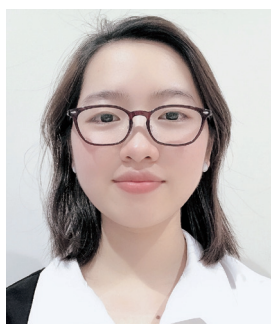
Another major problem with online class and communication is the grave violation of right to privacy. Some online communication Apps are stealing the personal information of the users. Which is a cyber-crime and punishable offence in accordance with law.

Besides that, due to pandemic situation daily life of the students has become monotonous for being confined to the four walls of bed room. We have to maintain physical distance as well as social distance. No student is allowed to attend a year ending party with classmates and friends. So, lack of amusement is making the study process less enjoyable and incomplete.

Moreover, fewer international students than before can go to the home country to visit their family members during corona pandemic for some specific restrictions on travelling through international borders. Because they have to face serious procedural difficulties to get a corona negative certificate from the concerned authority. The air fare has become double for maintaining physical distance in the plane also. After reaching home from abroad he has to observe mandatory quarantine for at least fourteen days which is another cause why the greatest number of international students are deprived to visit their parents in the time of corona pandemic.

Last but not the least, many international students have lost their part time job and have become unemployed. Therefore, a large number of self-funded international students are facing serious financial crisis to bear their educational expenses as well as living costs. Nevertheless, we are now habituated with so called new normal. Attending online classes, presentations and meeting with friends in an online get together party is on the incline. Invention and distribution of Covid-19 vaccine across the globe is showing the light of hope at the end of the tunnel. We are highly expectant to breath in a Covid-19 free world soon.

— いわてユネスコ賞 —



コロナのおかげで体験できること

Luong Ngoc Phuong Lan
(ルーン ゴック フーン ラン・ベトナム)

岩手大学 理工学部

2020年は世界の混乱の年でした。この世界は今、コロナウイルスという怪物のようなものに支配されています。コロナがやって来て、私たちから色々なものを奪い、なんの罪もない人の命を容赦なく奪ってしまい、世の中を大きく変えました。しかし、私は新型コロナウイルスの影響は悪いものばかりではないと思います。コロナは怖いですが、コロナのおかげで色々な経験をする事ができ、気付かせてくれたこともあります。

皆さんはコロナが流行する前に、マスクの重要性を十分に感じられましたか。マスクは贅沢な贈り物になる日を想像したことがありますか。私は過去に一回も想像していませんでした。当たり前だとずっと思い込んでいることから当たり前じゃないことになったことで、私は一見小さくて些細なこと、些細なもの大切さを分かってきました。これからどんな些細なものでも大切にすると心がけています。

コロナのせいで出来なくなったことがたくさんありましたが、新しく始められたこともありました。このようなスマホでの勉強、オンラインの授業、オンライン面接もそうだと思います。また、コロナウイルスが早く収束するのに部屋に過ごす時間も増えているため、その時間を利用し、出来ることを探して新しいことに挑戦してみました。料理を作ることにしました。肉じゃがや、里芋の煮物や、炊き込みご飯、豚汁、きんぴらごぼう、つけ麺…などの日本の家庭料理は前にお店に行くか、友達の家に行くかの時にしか食べられないが今は自分で作られるようになりました。毎日食べても飽きないぐらい大好きなつけ麺は今、私の自慢できるお料理になりました。

今度、母国に帰る時、日本に来る機会がまだない友達やご家族に日本の美味しく健康的である家庭料理を作って、皆で一緒に食べたいと思っています。私の両親も楽しんで待っているよと言ってくれました。これから、自分の料理のスキルを向上させていきたいです。



新型コロナウイルスはまるで私達の人間性を試しているようなので、この機会ですべて大切にすることと共に沢山の新しいことに挑戦していきたいと思っています。

— サーモンランド賞 —



コロナ時代、生活での些細な出来事

何 奕君 (カ エキウン・中国)

岩手大学 人文社会科学部

岩大に来ておよそ一年。コロナ禍が今だにも収まらず人々の健康を脅かしている。マスクをつけて出かける毎日だが、冬になると、呼吸する度にメガネが曇ってしまい、前が見えなくなってしまう。かと言ってメガネを外すと、ぼんやりとした世界しか見えず、嫌に思いながらも、袖でメガネを拭いてかけ直す。そしてまた曇る。こんな時に、メガネにワイパーがあったら、なんといいことなのだろうといつも思う。

コロナ禍が収まらない限り、出来るだけ自粛するようにしている。ラーメン屋やレストランなどに行かず、大好きなすき屋の牛丼も諦める。そして不慣れながらも毎日自炊し、最初のころは、炒め料理を作る度、厨房が惨烈な戦場になってしまう。卵焼きは常に爆竹の音を伴い、油が飛び出して手についたら思わず大声を出す。時々フライパンから煙が立ち込めて咳が止まらない。近所迷惑にも程があるだろう。それでも諦めずに何度も自炊して現在、なんとなくきばきと料理を作れるようになった。

大学で前期は遠隔授業だったが、その半年ほどで日本語リスニングの力が随分と伸びたような気がする。マイクを通して伝わってくる先生の声だが、聞き取りづらかったりすることが多かった。これ以上集中できない精神をさらに集中させ、想像力も働かせて二時間ほどじっとパソコンを睨む。受講というより修行の日々を乗り越えた今では、対面授業で以前のように気を引き締めて聞かなくても、授業の内容がほぼ理解できる。さすが俺だと言いたくなるものだ。

コロナ禍で失われたものが多かった。特にバイトができず日々痩せていく財布を見ると心が痛む。が、色々な人にお世話になり、奨学金ももらえてなんとなく生活を続け、勉強に一心することができたのだ。半分引きこもり生活をさせられる今だが、コロナ禍が収まったら、今度こそ部屋から出て、バイトして、自分で金を稼いで、留学生生活を満喫しよう。



— IF YOU WANT 賞 —

コロナが私に教えてくれたこと

Tserensambuu Mandukhai
(ツェレンサンブー マンドハイ・モンゴル)

岩手大学 人文社会学部

世界が一瞬で変わるとはこのようなものだろうか、と考えながら学校に通う日々が続く。コロナが発生してから約一年が経過し、我々にとって様々なことについて考えさせた時期だったと思う。この「新しい生活様式」に徐々に慣れてきたという人もいれば、新型コロナウイルスの影響により、不満を抱いている人や先が見えない事態に不安や戸惑いが多い人もいるのではないかと。一長一短ということわざがあり、どのようなものにも長所と短所があるという意味を持つ。そのため、コロナが起こしたことは悪影響ばかりだったかという、そうでもないと考える。

この大変な時期は新生生にとっては、新生活が始まり、友達やサークルなど色々なことに期待しているはずなのに、この状況になってしまいとても不安な気持ちであったと思う。去年の夏頃に学校に行ったが、静かな学校が私を迎えてくれた。本来なら学生の笑い声があったり、教職員の仕事への熱心さを感じたりすることができただろうと考えたら寂しい気持ちが溢れてきた。留学生も帰省することができなくなり、楽しみにしていたいろいろな計画が破綻され、母国に住んでいる家族への心配や経済的な困難などによって苦勞したことが多かっただろう。

しかし、この状況だからこそ悲観的に考えないことが大事である。私はこの一年で気づいたことの一つは、心配するのは悪いことではないということである。心配するから、我々は何をすれば良いか、または、すべきことについてよく考えて行動するようになる。家族への心配があるからもっと親に電話をかけたり、「愛している」ということを伝えたり、今という「時」を大事にしている。コロナが私たちに教えてくれたことは「別れや苦しみ」だけではない。「身近にあるものの大切さ」もあるのではないかと。元の世界へ戻りたいと考えるのではなく「今」を大事にしたいと考えていけば、いつかその「時」がきつくと私は信じる。この時期は我々にとって「昨日の自分より良い自分」になるための時期であると考えている。

— 事務局優秀賞 —



International Students in the Epidemic Era

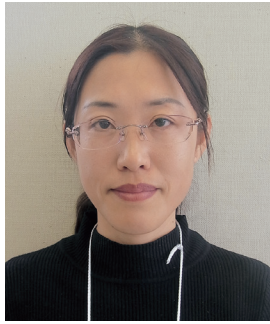
Yuchao Wang (China)

Faculty of Humanities and Social Sciences, Iwate University

The madness epidemic has spread like wildlife around the world. During the COVID-19 pandemic, international students not only have to bear the pressure of study, but also the mental pressure. For example, since many universities have transferred their teaching activities online due to the epidemic, the quality of teaching cannot be guaranteed. And this form of lack of interaction makes it difficult for us to concentrate. In addition, we have to endure the loneliness and boredom of living alone. Staying in the room all day makes it easy to feel emotionally depressed, and the so-called multi-environment is inaccessible at all. On the other hand, some of us also have a lot of psychological pressure, especially when our friends are subjected to racially discriminatory remarks.

However, the way that returns to our home country is long, and everyone has to comfort each other and make fun in hardship with the belief that now you are here you'd better stay. It is gratifying that the Chinese embassy and universities have provided assistance services to us in response to the pandemic. Additionally, it is because we have saved a lot of commuting time that we can use our free time to develop some hobbies. Moreover, everyone has changed their way of traveling. For instance, some students have chosen to travel by caravan, through which they can get close to nature and avoid crowds.

The epidemic will eventually become history. It is not only a test for every country, but also a life test for us who are studying abroad. During this period of time, even if we encounter various difficulties, our self-reliance and psychological endurance are stronger.



— 奨励賞 —

コロナ時代と私たち

趙 蓬 (チヨウ ホウ・中国)

上野法律ビジネス専門学校 総合ビジネス学科観光ビジネス留学生コース

コロナが発生して以来、生活は大変影響を受け大変なことが多かったです。遠い場所に行かないでオンライン面接を受けて良かったと思う人がいるかもしれませんが、私にとっては全然変わらなかったです。

最初は留学生として日本へ来たら帰りたいときいつでも帰れると考えていましたが、いきなりコロナが発生し正常な生活が乱されてしまいました。中国に帰りたくても帰れなくなり、両親に会いたくても会えないつらい気持ちになる日が多かったです。

本来は2020年の夏休みの時期に中国に1回戻って両親に会う予定でしたが結局コロナ禍で会えなかったです。もし日本でコロナに感染したら、一人で他国にいる私はどうすればいいのかと思うと余計に怖くなりました。

また、アルバイトも急に減少になり、どこでも大変な時期なのに私は学費と生活費は中国の両親からもらうしかないと考え、両親に負担をかけてしまうこととなりました。コロナ禍が終息したらしっかりアルバイトを行い両親の負担を軽減したいと思います。

私はコロナ禍がひどい状況でも東京に行き面接試験を受けに行き心の中はどのようなだろうとドキドキでした。コロナ禍のなかで良かった点は無かったです。最初にも述べましたがコロナ禍の中で遠くに行かなくてもオンラインで大学や就職の面接試験が受けられて良かったという人がいるのなら羨ましいです。

それでも私はコロナに感染の恐れがある時代に良かった点もあると考えます。それは自分が元気でいられることです。これからも油断せずコロナ禍が終息するまで自分を守っていきます。

— 奨励賞 —



コロナをチャンスに

La Woon Pyae (ラ ウォン ピエ・ミャンマー)
盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校 日本語学科

2019年に起きた新型コロナウイルスは私の生活に大きい影響を与えました。コロナ時代に私達は外へ出るのが怖くなり、自分や自分の家族に感染するのを心配して過ごしています。今まで当たり前だと思っていた未来が変わりました。このコロナ時代に日本へ留学することは私にとってリスクでした。留学のため、資料を準備するとき、必要な書類は前より多くなりました。コロナの検査のため病院へ行ったり、入国したら待機するための書類を作ったりしました。それらは経済的にも負担がかかりました。しかし私は諦めず待機中はオンラインクラスで勉強し、今年の11月に来日することができました。来たばかりはアルバイトがなかなかできませんでした。工場は労働者を減らし、レストランは外食する人が少なくなったせいでスタッフが要らなくなったりしたからです。

しかし、コロナがなかったら、気づけなかったいいこともありました。コロナ時代がなければ、人と会うこと、外へ遊びに出ることができる普通の日はこんなに幸せなんだと気づきませんでした。また、コロナ対策のおかげで、インフルエンザにかかる率が低くなりました。それに、オンライン授業は行き帰りの時間がかからないので便利でした。同じように、ネットで仕事の打ち合わせや面接などいろいろできることに気づきました。

コロナはいつなくなるか誰もわかりませんが、健康的な食事をとる、睡眠時間を十分にとる、適度な運動をするなど、生活の習慣を工夫すれば今感じているストレスやコロナ疲れを解消することができると思います。コロナの時代だからと言って何もできなくて諦めることなく自分の健康を大切に、自分の選んだ道を行ったらいいと私は思います。

— 奨励賞 —



コロナの時代に生きてても、怖くない

江 敏婷 (コウ ビンテイ・中国)

岩手大学 総合科学研究科

コロナの時代に入っている以来、私たちのライフスタイルは大きく変わった。

遠隔授業が始まったり、マスクの時代に入ったり、旅行に行けなくなったりするようになった。最初はこれらの変化に対して、結構抵抗感があった。それに、友達と会って話す時間がだいぶ減ったので、ストレスがたまった時期もあった。

遠隔授業は確かに便利だが、宿題の量もだいぶ増えてきて、毎日は家でレポートを書く生活を送っていた。これはいつもの授業より疲れていた。また、どこに行ってもマスクや消毒をしないといけないので、面倒だと思った。でも、知らないうちに、このような生活に慣れてきた。

自粛生活をして、家にいる時間が増えているので、自分と向き合う時間も増えてきている。授業が終わった後、すぐに好きなことをすることができた。例えば、好きな料理をしたり、読書したり、音楽を聴いたりする。また、ずっとハムスターを飼っているから、授業を受け、レポートを書くのは大変だが、その子の顔を見るだけで癒されて、すぐ回復できるようになった。



それに、コロナがひどくなったときに、中国の友達からの連絡が結構あって、私の近況を聞いた。このように関心を払われたのが、とてもうれしい。友達とビデオ通話をするのが頻繁になって、お互いに自分の研究生活や仕事のことをしゃべって、いくらストレスがたまってても、すぐ気分が晴れるようになった。私たちは様々な方式で、困難を乗り越えている。

例えば、オンライン留学している友達もいて、本当にこのコロナの時代にしか体験できない留学だ。日本で在宅勤務している友達もいて、仕事の量はあまり変わらないが、通勤の時間がないので、自分に使う時間が増えて、いつもより楽しいらしい。

「コロナ」のおかげで、私たちは新しいライフスタイルを発見した。それだけでいいものではないか。コロナの時代に生きてても、怖くない。怖がらないと、希望や面白いものが見えてくる。

宮古市

多文化共生推進の取り組み

宮古市では、宮古市国際交流協会と連携し、多文化共生推進の取り組みを進めています。取り組みを通して、言葉の壁をはじめとする外国人が感じる不便さの解消、市民が多文化に触れ、グローバルかつローカルな視点で考える機会の増加、外国人材とのネットワーク強化・外国人材の地域での活躍につなげたいと考えています。

2020年度、新型コロナウイルス感染症の影響の中、新しい生活様式を模索しながら実施したことを、「国際交流・国際理解活動」「外国人市民等支援」「インバウンド対応」の3つの分野から一つずつ紹介します。

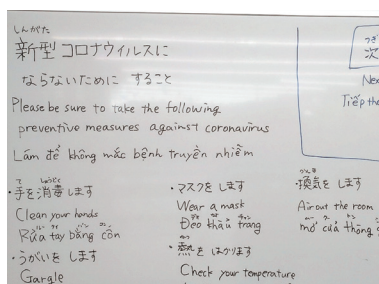
国際交流・国際理解活動 ～ナミビア料理オンライン講習会～

2020年8月30日に、ホストタウン相手国であるナミビアへの理解を深めることを目的に実施しました。講師は、宮古市在住でナミビア出身の佐々木アニータさんです。宮古市国際交流協会 YouTube チャンネルで配信し、家にいながら外国文化を体験できる機会を提供しました。



外国人市民等支援 ～日本語教室「さくら」～

月4回程度、定期的な日本語教室を開催しています。緊急事態宣言が発令された4月～5月はオンライン開催を試行しました。現在は、対面で行っていますが、消毒、検温、換気、マスク着用を徹底しています。また、感染症の注意喚起を行っています。日本語教室が情報提供の場になり、外国人の皆さんと地域をつなぐ役割を担っています。



インバウンド対応 ～医療通訳研修会～

2020年11月21日に、外国人観光客・外国人市民が医療機関を受診する際に、通訳としてサポートできる人材を増やすことを目的に実施しました。県外在住の講師の方々とはオンラインでつなぎ、会場参加者を少人数としたほか、オンライン受講希望者にも対応しました。アフターコロナの外国クルーズ船寄港再開を見据え、準備を継続しています。



詳しくは、宮古市国際交流協会のホームページ等をご覧ください。



HP



FB



YouTube

盛岡市

(公財) 盛岡国際交流協会

盛岡市文化国際課と(公財)盛岡国際交流協会は、盛岡市役所別館7階にあり、盛岡市の歴史・文化の特性を生かしながら、幅広い分野の国際交流に関する活動を展開することにより、市民の国際相互理解と国際交流の促進を図る活動をしています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、人と人との直接的な交流が難しい場面もありましたが、工夫をしながら国際交流活動に取り組んできました。

令和2年度の活動の一部をご紹介します。今回ご紹介する活動以外にも、盛岡市在住の外国人が母国の料理の調理法を紹介するオンライン料理講座の動画配信や、留学生の皆さんにも参加・協力していただいた活動など、様々なことに取り組みました。

市ホームページや協会ホームページ、インスタグラムなどで講座情報や生活情報を随時お知らせしています。ぜひ御覧ください！

盛岡市



HP

MIRA Morioka International Relations Association
公財団法人 盛岡国際交流協会



HP



Instagram



Facebook

盛岡市・ビクトリア市姉妹都市提携35周年



盛岡市とビクトリア市が姉妹都市を提携して35周年を迎えました。訪問団による相互の行き来は中止となってしまいましたが、様々な交流を行いました。

←【ビクトリア市コレクション展の様子】

これまでビクトリア市より贈呈された作品を展示し、長年の交流の軌跡をお知らせしました。

盛岡市・花蓮市友好都市提携1周年

盛岡市と友好都市を提携して1周年を迎えた台湾・花蓮市では、友好都市提携を記念した記念碑が建立されました。花蓮市と盛岡市をオンラインで繋ぎ、現地で行われた建立式典をお祝いしました。「両相好(リャンシアンハオ)」と名付けられた記念碑は、向かい合う盛岡市と花蓮市が抱擁を交わす瞬間を表し、出会った瞬間の嬉しさや喜びを表現しています。



留学生関係資料

令和2年度地域交流等実施計画調査結果

2020年5月 調査時点

団体名	事業行事名称	開催時期	開催場所	概要
岩手県留学生交流推進協議会	(協力事業) グローバルキャリアフェア in 岩手	R2.12	岩手産業文化センターアピオ	いわてグローバル人材育成推進協議会と協力して、外国人留学生等を岩手県内での就職・定着を支援するため、グローバルキャリアフェアを開催する。
	「with コロナ時代の留学生たちは？」 作文コンクール	R3.1～R3.2	岩手大学	留学生から with コロナ時代における感想を作文に書いてもらい、コロナとの共存・共生の価値観や世界観について向き合う機会とし、未来に希望を与える機会とする。
岩手大学	留学生オリエンテーション	R2.4 (オンライン配信) R2.10	岩手大学	留学生及びチューターを対象とした、勉学・生活等に関するオリエンテーションを行う。
	ガーデンパーティー	新型コロナウイルス蔓延防止のため中止	岩手大学 中央食堂前	留学生が自ら企画・主催して、地域の住民を招待し、それぞれの国の文化紹介や料理等を提供して交流を図る。
	盛岡さんさ踊り参加	新型コロナウイルス蔓延防止のため中止	盛岡市内	盛岡地域の伝統文化行事である「さんさ踊り」に留学生が参加し、市民との交流を図る。
	不来方祭 (大学祭)	R2.10.17～18	岩手大学	学内限定で開催。コロナの蔓延防止のため模擬店の出店が中止になった。
	日本の伝統文化「着物着付け体験」	新型コロナウイルス蔓延防止のため中止	岩手大学	日本文化理解の一環として留学生が着物の着付け体験を行うことで、日本の伝統文化について学ぶ。
	岩手大学国際月間	R2.11	岩手大学	岩手大学では学生・教職員及び一般市民に対し、国際理解力の増進と国際交流への関心度を向上させ、各事業の波及効果の上昇を図ることを目的に、「岩手大学国際月間-Iwate University International Month」を開催。海外派遣プログラムに参加した学生の体験談発表展示や報告会、協定大学の教員による英語での講演会等様々なイベントを集中的に開催。
	フィールドツアー (見学等)	R2.11.20	宮城県松島	東北地域の伝統文化体験や観光地・文化施設への訪問、見学を通して、留学生の交流促進、職業意識の高揚や日本と岩手の産業・文化・伝統への理解を深める。
	フィールドスタディ (工場見学)	R3.2.17 R3.2.19	アイシン東北(株) 盛岡セイコー工業(株)	いわてグローバル人材育成推進協議会主催のフィールドツアーへ参加し、職業意識高揚や日本および岩手の理解を深めるため、岩手県にある企業や施設の見学を実施する。
	フィールドスタディ (スキー)	R3.1.15 R3.2.15	八幡平市	岩手大学在籍の外国人留学生が、母国で経験することの少ないスキーや雪遊び体験等を通じて、雪国である岩手の冬に親しみ、更に留学生相互、教職員並びに地域住民等との交流を図り、留学生生活への適応と留学生教育の効果を高める。
	多文化多言語交流空間グローバルビレッジ	通年 (2016年から毎年継続)	岩手大学	岩手大学の日本人学生と留学生、地域の一般市民 (一部の事業) が参加できる課外国際教育プログラム①グローバルイベント・ワークショップ (国際交流・異文化理解・地域理解) ②日本語カフェ (日本語で留学生と交流、会話) ③ English Time (英語個別相談、指導) を開催している。

団体名	事業行事名称	開催時期	開催場所	概要
岩手県立大学 盛岡短期大学部 岩手県立大学 宮古短期大学部	国際交流バスツアー	夏季：R2.6頃 (中止) 冬季：R2.12頃	岩手県内	留学生と日本人学生の交流推進を図ると共に岩手県の魅力を留学生に知ってもらう機会を提供
	風のモントで 国際交流	R2.5~11(2回)	岩手県立大学	留学生による母国文化紹介や多文化理解講演会等の開催
	大学祭	R 2.10.31 ~11.1	岩手県立大学	留学生と国際交流サークルが共同で模擬店を出店、海外研修パネル展示及び報告会の開催
	英会話交流事業 「English Time」	R2.5~7(中止) R2.10~1の期間 中月2回	岩手県立大学	初級者から上級者まで、気軽に参加でき、英語で楽しく会話する交流の場を提供
	留学生等の派遣事業	随時	岩手県内	岩手県内の各種団体等が実施する国際交流イベントや国際理解促進事業への留学生の派遣
富士大学	留学生オリエンテーション	年4回程度	富士大学	留学生対象に、寮生活、アルバイト等に関するガイダンスを実施
	ダニエル先生の 英語講座	R.2.6/11	富士大学	地元高校生や、地域住民を対象に英語講座を開催する。
	学外研修旅行	R.2.8	平泉／中尊寺他	日本文化を体験し、日本への理解を深める。
	花巻まつり	R.2.9	花巻市	祭りに参加して、日本文化を体験する。
	紫陵祭(大学祭)	R.2.10	富士大学	模擬店を出店して、母国の料理を披露する。
	花南地区コミュニ ティ会議 富士大学・ 中学生交流会	R.2.12	花南振興セン ター	地域の中学生とゲームや意見交換等を通じて交流を深める。
盛岡大学	スピーチコンテスト 英語文化学科	R2.11	盛岡大学	学内から参加者を募り、英語によるスピーチコンテストを行う。その際、留学生はゲストスピーカーとして発表する。
	春季海外英語研修	R3.2	カナダ カモーンソン大学	学内から参加者を募り姉妹校であるカナダ・ビクトリア市にあるカモーンソン大学で行われる約2週間の英語研修に参加する。
一関工業高等 専門学校	異文化体験学習	R2.11	一関工業高等専 門学校	留学生に書道を体験してもらい、日本への理解を深めてもらう。
	異文化体験学習	R2.11	一関工業高等専 門学校	留学生に華道を体験してもらい、日本への理解を深めてもらう。作品は学園祭(高専祭)で展示する。
盛岡情報ビジネス 専門学校	日本語学科祭	R2.9	盛岡情報ビジネス & デザイン 専門学校日本語 学科	留学生の出身国紹介を通し、参加者の方と交流を深める
	りんご狩り	R2.11	高館農園	岩手・ベトナム青少年を支援する会会員のみなさんと交流を深める
	スケート教室	R3.2	みちのくココ・ コーラボトリン グリンク	岩手・留学生を支援する会会員のみなさんとウインタースポーツを体験

団体名	事業行事名称	開催時期	開催場所	概要
上野法律ビジネス専門学校	課外活動	R2.7 下旬	岩手県内	留学生と日本人学生の交流推進を図ると共に岩手県の魅力を留学生に知ってもらう機会を提供
	酒買地蔵尊例大祭	R2.7 下旬	盛岡市材木町	留学生による母国文化紹介や多文化理解講演会等の開催
	ファッションセミナー	R2.8 下旬	上野法律ビジネス専門学校	留学生と国際交流サークルが共同で模擬店を出店、海外研修パネル展示及び報告会の開催
	秋のスポーツ大会	R2.10.23	盛岡市内	初級者から上級者まで、気軽に参加でき、英語で楽しく会話する交流の場を提供
	上学祭（学園祭）	R2.11.27～28	上野法律ビジネス専門学校	岩手県内の各種団体等が実施する国際交流イベントや国際理解促進事業への留学生の派遣
	課外活動	R2.11 下旬	岩手県内	留学生対象に、寮生活、アルバイト等に関するガイダンスを実施
	部活動	随時	※活動に応じる	地元高校生や、地域住民を対象に英語講座を開催する。
岩手県 (いわてグローバル人材育成推進協議会)	外国人を対象としたインターンシップ	R2.11～R3.2	各受入企業	県内留学生等の県内就職を支援するためインターンシップを実施。
	企業訪問	R3.2.17 R3.2.19	アイシン東北(株) 盛岡セイコー工業(株)	県内企業の取組を理解し、県内就職等に繋げることを目的に企業訪問を実施。(例年岩手大学との共催で取り組んでいるもの)
岩手県教育委員会	いわての地域国際化人材育成事業「海外派遣研修」北米コース	R2.10.12～10.25	アメリカ合衆国	県内高校生 12 名を 14 日間アメリカ合衆国に派遣し、学校交流や企業訪問等を行う。
	いわての地域国際化人材育成事業「イーハトーブ・キャンプ」	R2.5～9 全 4 回	県内 3 会場（県央、県南、沿岸）	小 5～高 3 対象に、目的別の 2 種類の英語キャンプを開催する。
	雲南省教育交流推進事業	R2.9.13～19 R2.11.8～15	岩手県内、中国雲南省	本県と中国雲南省の教員同士が、受入と派遣を通して相互交流を深める。
一関市	中学生海外派遣事業	(中止) R2.7 下旬～8 月上旬	オーストラリア クィーンズランド州セントラルハイランズ市	中学生 8 名を国際姉妹都市へ派遣する。(11 日間)
	セントラルハイランズ市高校生受入事業	(予定) R2.12	一関市内	国際姉妹都市であるオーストラリアのセントラルハイランズ市から高校生を受入、相互理解と友好を深める。
	日越教育交流事業	(予定) R2.10 下旬	一関市内	ベトナムのホーチミン市から日本語を学ぶ大学生等を招へいし相互理解を図る。
	多文化共生事業	(予定) R2.11	一関市内	外国人や地域住民との多文化共生について考える。

団体名	事業行事名称	開催時期	開催場所	概要
宮古市	にほんご広場・ごみの出し方研修 ※多文化共生推進業務委託	R2.5.11	イーストピアみやこ 市民交流センター	ごみの出し方をテーマに、宮古でのごみの出し方、ごみ出しに関連した日本語について理解を深めるほか、出身国での様子を紹介し合う日本語教室を開催
	にほんご広場・フォトコンテスト※多文化共生推進業務委託	R2.6 下旬～ 12 下旬	イーストピアみやこ 市民交流センター	「Cool!MIYAKO-jin (みやこ人)」をテーマに、宮古で出会った人物を対象としたフォトコンテストを開催
	みやこタウン出展 ※多文化共生推進業務委託	未定	未定	小学 4～6 年を対象に、パスポート取得体験、多文化体験を実施
	外国料理講習会 ※多文化共生推進業務委託事業	R2.8.30	市内	料理を通して、異文化理解を深める講習会を実施
	みやこ秋まつり参加 ※多文化共生推進業務委託事業	R2.9.19	市内	みやこ秋まつり 1 日目の手踊りパレードに参加
	にほんご広場・災害時研修 ※多文化共生推進業務委託事業	R2.11.1	イーストピアみやこ 市民交流センター	災害時の避難や日常の備え、よく使われる日本語について理解を深める日本語教室を開催
	にほんご広場・書き初め研修 ※多文化共生推進業務委託事業	R3.1.10	イーストピアみやこ 市民交流センター	書道を体験するほか、ひらがな等日本語に興味を持つ、日本語教室を開催
にほんご広場・にほんごスピーチコンテスト ※多文化共生推進業務委託事業	R3.3.7	イーストピアみやこ 市民交流センター	テーマに沿って、自分の意見を日本語で発表するスピーチコンテストを開催	
盛岡市	キッズ・レッツ・プレイ	R2.10～R3.3	市内保育園等	子ども向けの異文化体験講座
	語学入門講座	R3.2	市内公民館等	英語以外の言語について入門レベルの語学講座
	国際理解講座	R2.6,7,9	仙北地区老人福祉センター等	市民に海外に広く関心と興味を持ってもらうための講座
	異文化理解講座	R3.3	上田公民館等	外国籍市民を講師に料理講座や文化紹介を行う講座
	盛岡生活オリエンテーション	R2.10	盛岡情報ビジネス専門学校日本語学科等	在住外国人への生活支援事業としてごみの分別を取り上げる
	日本文化体験講座	R3.2	中央公民館等	在住外国人に日本の文化を体験してもらい、日本への理解を深めてもらう講座
	中学生による国際交流スピーチコンテスト	R2.7	上田公民館	市内中学生による国際交流をテーマにしたスピーチコンテスト

団体名	事業行事名称	開催時期	開催場所	概要
盛岡市教育委員会	盛岡市とアールラム大学との教育交流 (ALT の招聘)	通年 (毎年継続)	盛岡市立各小・中・高等学校	アールラム大学卒業生 7 名 (多くは SICE プログラム経験者) を招聘し、市立の中・高等学校に配置し、近隣の小学校にも派遣。
	盛岡市とアールラム大学との教育交流 (大学短期留学生の受け入れ・SICE プログラム)	8 月～11 月 (R2 は中止)	盛岡市内 (各小・中学校)	市立の中学校での英語授業への参加、市内でのホームステイをとおして、日米の教育実践の比較研究等に協力するための受け入れ事業。
	令和 2 年度米国アールラム大学留学生オリエンテーション	8 月下旬 (R2 は中止)	盛岡市内	上記留学生と引率教授を対象に、盛岡市及び盛岡市の教育の概要について説明し、懇談。
	令和 2 年度米国アールラム大学留学生送別会	11 月下旬 (R2 は中止)	盛岡市内	上記短期留学の終了にあたり、盛岡市滞在の最後の思い出になるよう、夕食会を開催。
	盛岡—インディアナ州交流派遣研修 (生徒・教員の派遣)	10 月下旬～11 月上旬 (R2 は中止)	アメリカ合衆国・インディアナ州	市立中学生 4 名、市立高等学校生 1 名、引率教員 2 名を派遣し、米国の学校及び社会生活の体験、教育・文化等の視察をとおして、国際的視野育成をめざす。
滝沢市	たきざわ国際理解・国際交流セミナー「グローバルなマナビ 世界はひとつ SDGs セミナー」	R2.9.22	ビッグルーフ滝沢	SDGs に関する講演とゲームを通じた地球規模課題解決につながる身近な取り組みへの意識啓発
公益財団法人岩手県国際交流協会	外国人との交流会	毎月第一、第二土曜日他	アイーナ国際交流センター内	在住外国人との協働企画により、定期的に交流会や語学サロン等を開催する。
	2020 ワン・ワールドフェスタ in いわて	R2.11.15	アイーナ国際交流センター内	在住外国人やボランティア、関係団体等との連携による国際交流イベントを開催する。
	フェアトレードディ	未定	アイーナ国際交流センター内	フェアトレードを通じて国際協力の意識啓発を図るイベントを実施する。
	いわて災害時外国人支援体制構築事業	R2.6～8、R3.1～2 頃	アイーナ及び県内数箇所	災害時における外国人支援体制の構築及び外国人の意識の醸成を図る取り組みを行う。
	多文化共生地域づくりセミナー	R2.11 頃	アイーナ	外国人と共生するまちづくりについて考える契機とする講演会を開催する。
	多文化共生地域づくりワークショップの実施	R2.9～11 頃	アイーナ及び県内数箇所	外国人とともに地域の国際化や多文化共生を切り口としたまちづくりについて考えるワークショップを実施する。
	いわてグローバル・カレッジ	R2.11 頃	アイーナ	今後の国際交流・国際協力・多文化共生について様々な角度から考える契機とする講演会等を開催する。
	いわて青年国際塾	R2.10.17	秋田市	外国人との交流を通じての異文化体験や、グローバルな人材に必要な能力や技術等の習得を目指した研修会を実施する。
	グローバルキャリアフェア in 岩手	R2.12.16	アイーナ	留学生等外国人の県内企業への就職の切っ掛けとなる取り組みを行う。
	外国人や海外経験を有する日本人学生等と企業とのワークショップ「いわてで働こう！外国人のための就活ワークショップ」	R2.12.13	盛岡市	留学経験のある学生等や県内在住外国人と会員企業の関係者が参加するワークショップや企業訪問を開催し、情報交流を行う。

団体名	事業行事名称	開催時期	開催場所	概要
国際ロータリー 第 2520 地区	米山学友会総会	R2.7.26	江陽グランド ホテル	米山記念奨学生 OB 会総会
	米山記念奨学生 研修旅行	R2.9.27	一関方面	日本文化の理解を深める研修
	米山記念奨学会 研修会	R2.10.4	江陽グランド ホテル	ロータリークラブ会長・米山委員長への研修会
	米山月間	R2.10		奨学生の各クラブスピーチ並びに非世話クラブ への奨学生派遣スピーチ
	地区大会	R2.10.18	花巻温泉 (ホテル紅葉館)	地区の年間活動報告および懇親
	米山記念奨学生 りんご狩り	R2.11.15	岩手県 一関市近郊	親睦会
	奨学生選考試験 (岩手地区)	R3.1.10	アイーナ	次年度の奨学生応募者に対し選考試験の実施
	奨学生選考試験 (宮城地区)	R3.1.17	戦災復興記念館	次年度の奨学生応募者に対し選考試験の実施
	米山記念奨学生 歓送会	R3.2.14	江陽グランド ホテル	奨学生歓送会及び囲む会の実施
	オリエンテーション (岩手・宮城合同)	R3.4.4	江陽グランド ホテル	合格した奨学生に対しオリエンテーションの実施
花巻ホームステイ 協会	ホームステイの 受入れ	随時	会員宅	現在のところ未定です。
	会員研修会	未定	ホテル花城	花巻を訪れる海外在住者や外国人を講師に研修 を行います。
	クリスマスパー ティー	R2.12.19	ホテル花城	花巻在住の外国人を招き、交流を行います。

岩手県内高等教育機関における外国人留学生の受入れ状況

(令和2年5月1日現在)

学 校 名	受入 人数	国別内訳		経費種別内訳				学生種別内訳					
		国・地域名	人数	国費	政府 派遣	岩手 県費	私費	学部 学生	大学院			科目等 履修生	聴講生 その他
									修士	博士	研究生		
岩手大学	201	中国	105	2	0	0	103	29	31	22	17	0	6
		モンゴル	14	0	0	0	14	2	3	9	0	0	0
		韓国	13	0	0	0	13	12	0	1	0	0	0
		ベトナム	12	1	0	0	11	6	2	4	0	0	0
		タイ	8	1	0	0	7	0	1	4	0	0	3
		インドネシア	6	4	0	0	2	0	0	5	0	0	1
		バングラデシュ	13	9	0	0	4	0	0	8	5	0	0
		マレーシア	5	0	2	0	3	5	0	0	0	0	0
		台湾	4	0	0	0	4	0	0	0	1	0	3
		インド	3	0	0	0	3	0	1	2	0	0	0
		カンボジア	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
		エジプト	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
		エチオピア	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
		ケニア	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
		シエラレオネ	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		ベナン	2	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0
		ガイアナ	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		アイスランド	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		スペイン	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		ドイツ	2	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0
フランス	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2		
トルクメニスタン	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
ロシア	2	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0		
ウズベキスタン	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0		
岩手県立大学	27	中国	15	0	0	0	15	0	6	4	0	0	5
		台湾	3	0	0	0	3	0	2	1	0	0	0
		インド	3	1	0	0	2	0	2	1	0	0	0
		バングラデシュ	3	2	0	0	1	0	1	2	0	0	0
		アメリカ	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
		エジプト	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		オーストリア	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
岩手医科大学	3	タンザニア	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		中国	2	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0
富士大学	34	韓国	25	0	0	0	25	25	0	0	0	0	0
		中国	9	0	0	0	9	7	2	0	0	0	0
盛岡大学	1	韓国	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	
岩手県立大学 宮古短期大学部	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
岩手県立大学 盛岡短期大学部	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
修紅短期大学	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一関工業高等専門学校	6	モンゴル	2	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0
		ウガンダ	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		カンボジア	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		ベトナム	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
		マレーシア	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
盛岡情報ビジネス 専門学校	87	ベトナム	35	0	0	0	35	35	0	0	0	0	0
		中国	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
		ネパール	38	0	0	0	38	38	0	0	0	0	0
		ミャンマー	2	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0
		バングラデシュ	6	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0
		パキスタン	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
		フィリピン	4	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0
上野法律ビジネス 専門学校	56	中国	37	0	0	0	37	37	0	0	0	0	0
		バングラデシュ	12	0	0	0	12	12	0	0	0	0	0
		ネパール	7	0	0	0	7	7	0	0	0	0	0
計	415		415	30	4	0	381	239	53	76	24	0	23

岩手県内高等教育機関における外国人留学生の受入れ状況

(令和2年11月1日現在)

学校名	受入人数	国別内訳		経費種別内訳				学生種別内訳					
		国・地域名	人数	国費	政府派遣	岩手県費	私費	学部学生	大学院			科目等履修生	聴講生その他
									修士	博士	研究生		
岩手大学	182	中国	100	1	0	0	99	29	31	23	17	0	0
		モンゴル	14	0	0	0	14	2	2	9	1	0	0
		韓国	12	0	0	0	12	11	0	1	0	0	0
		ベトナム	12	1	0	0	11	6	2	4	0	0	0
		タイ	6	2	0	0	4	0	1	4	0	0	1
		インドネシア	5	3	0	0	2	0	0	5	0	0	0
		バングラデシュ	11	9	0	0	2	0	1	7	3	0	0
		マレーシア	5	0	2	0	3	5	0	0	0	0	0
		台湾	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
		インド	3	0	0	0	3	0	1	2	0	0	0
		カンボジア	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
		ゴンゴ共和国	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
		ケニア	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
		シエラレオネ	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		ベナン	2	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0
		ガイアナ	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		スペイン	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		ドイツ	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
		フランス	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
		トルクメニスタン	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
ロシア	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0		
ウズベキスタン	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0		
岩手県立大学	21	中国	10	0	0	0	10	0	4	6	0	0	0
		台湾	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
		インド	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0
		バングラデシュ	3	2	0	0	1	0	1	2	0	0	0
		アメリカ	2	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0
		エジプト	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		インドネシア	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
オーストリア	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0		
岩手医科大学	3	タンザニア	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		中国	2	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0
富士大学	24	韓国	15	0	0	0	15	15	0	0	0	0	0
		中国	9	0	0	0	9	7	2	0	0	0	0
盛岡大学	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
岩手県立大学 宮古短期大学部	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
岩手県立大学 盛岡短期大学部	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
修紅短期大学	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一関工業高等専門学校	6	モンゴル	2	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0
		ウガンダ	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		カンボジア	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		ベトナム	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
		マレーシア	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
盛岡情報ビジネス 専門学校	47	ベトナム	24	0	0	0	24	24	0	0	0	0	0
		ネパール	18	0	0	0	18	18	0	0	0	0	0
		バングラデシュ	2	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0
		パキスタン	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
		フィリピン	2	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0
上野法律ビジネス 専門学校	40	中国	21	0	0	0	21	21	0	0	0	0	0
		バングラデシュ	12	0	0	0	12	12	0	0	0	0	0
		ネパール	7	0	0	0	7	7	0	0	0	0	0
計	323		323	30	4	0	289	171	48	78	24	0	2

岩手県内高等教育機関における外国人留学生数の推移

(令和2年11月1日現在)

団体名	11年5月 (H23)	12年5月 (H24)	13年5月 (H25)	14年5月 (H26)	15年5月 (H27)	16年5月 (H28)	17年5月 (H29)	17年11月 (H29)	18年5月 (H30)	18年11月 (H30)	19年5月 (R1)	19年11月 (R1)	20年5月 (R2)	20年11月 (R2)
岩手大学	200	202	190	194	199	207	218	222	214	229	238	240	201	182
岩手県立大学	14	15	16	14	17	15	14	19	18	21	26	28	27	21
岩手医科大学	0	0	3	4	2	2	1	1	1	1	3	3	3	3
北里大学 生命科学部	0	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
富士大学	95	82	60	41	24	20	16	16	15	18	26	26	34	24
盛岡大学	0	2	2	3	4	3	2	2	3	3	3	4	1	0
岩手県立大学 宮古短期大学部	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岩手県立大学 盛岡短期大学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
修紅短期大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一関工業高等専門学校	5	3	3	7	8	8	6	6	7	7	7	7	6	6
盛岡情報ビジネス専門学校	58	41	45	42	66	56	40	85	68	89	49	77	87	47
上野法律ビジネス専門学校	/	/	/	/	/	/	/	/	21	26	32	69	56	40
計	373	345	319	305	320	311	297	351	347	394	384	454	415	323